



2023年1月30日
日本銀行札幌支店

北海道金融経済概況

2023年1月

<本件に関するお問い合わせ先>
日本銀行札幌支店 営業課（電話011-241-5232）
ホームページアドレス <https://www3.boj.or.jp/sapporo/>

<当店ホームページ>



全体感

北海道の景気は、緩やかに持ち直している。

すなわち、個人消費は、持ち直している。観光は、緩やかに持ち直している。設備投資は、緩やかに持ち直している。公共投資は、高水準ながら弱めの動きとなっている。住宅投資は、減少している。生産は、横ばい圏内の動きとなっている。輸出は、緩やかに増加している。

雇用・所得情勢をみると、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに改善している。

項目別判断の前回との比較

		前回	今回	変化
総括判断		緩やかに持ち直している。	緩やかに持ち直している。	→
需要項目	公共投資	高水準ながら弱めの動きとなっている。	高水準ながら弱めの動きとなっている。	→
	輸出	緩やかに増加している。	緩やかに増加している。	→
	設備投資	緩やかに持ち直している。	緩やかに持ち直している。	→
	個人消費	緩やかに持ち直している。	持ち直している。	↑
	住宅投資	減少している。	減少している。	→
生産		横ばい圏内の動きとなっている。	横ばい圏内の動きとなっている。	→
雇用・所得		一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに改善している。	一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに改善している。	→

総括判断の推移

	公表日	前回比	総括判断
2020年12月	12/14日	↘	新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあり、足もとでは持ち直しのペースが鈍化している
2021年 1月	1/28日	→	新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあり、持ち直しのペースが鈍化している
2月	2/25日	↘	新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあり、持ち直しの動きが足踏みしている
3月	4/1日	→	同上
4月	4/28日	→	新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあり、横ばい圏内の動きとなっている
5月	5/28日	→	同上
6月	7/1日	→	同上
7月	7/29日	→	同上
8月	会見なし	(→)	(同上)
9月	10/1日	→	同上
10月	10/29日	→	同上
11月	11/26日	→	同上
12月	12/13日	↗	新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあるが、持ち直しの動きがみられている
2022年 1月	1/28日	→	同上
2月	2/24日	↘	新型コロナウイルス感染症の影響から下押し圧力が強まっており、持ち直しの動きが一服している
3月	4/1日	→	新型コロナウイルス感染症の影響から下押し圧力が強い状態にあり、持ち直しの動きが一服している
4月	4/22日	→	同上
5月	5/27日	↗	新型コロナウイルス感染症の影響がみられているものの、緩やかに持ち直している
6月	7/1日	→	同上
7月	7/29日	→	緩やかに持ち直している
8月	会見なし	(→)	(同上)
9月	10/3日	→	同上
10月	10/24日	→	同上
11月	11/25日	→	同上
12月	12/14日	→	同上
2023年 1月	1/30日	→	同上

各論

1. 需要項目別動向

公共投資は、高水準ながら弱めの動きとなっている。

公共工事請負金額は、高水準ながら、このところ弱めの動きとなっている。

輸出は、緩やかに増加している。

食料品を中心に、緩やかに増加している。

設備投資は、緩やかに持ち直している。

12月短観（北海道地区）における2022年度の設備投資は、前年を上回る計画となっている。

個人消費は、持ち直している。

百貨店、サービス消費は、緩やかに持ち直している。スーパー、ドラッグストア、コンビニエンスストアは、緩やかに増加している。家電販売は、横ばい圏内の動きとなっている。乗用車販売は、下げ止まっている。

観光は、緩やかに持ち直している。

住宅投資は、減少している。

新設住宅着工戸数をみると、持家、分譲は、減少している。貸家は、下げ止まりつつある。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、横ばい圏内の動きとなっている。

主要業種別にみると、食料品、電気機械では、横ばい圏内の動きとなっている。紙・パルプでは、下げ止まっている。輸送機械では、幾分減少している。

3. 雇用・所得動向

雇用・所得情勢をみると、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに改善している。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）は、前年比が前月並みとなった。

5. 企業倒産

企業倒産は、低水準で推移している。

6. 金融情勢

預金残高は、個人預金を中心に増加している。

貸出残高は、前年並みとなっているものの、高水準で推移している。

貸出金利は、既往ボトムの水準で推移している。